

歯周病の予防 その2

前号では、「歯周病の予防」についてご紹介し、プラークコントロールの重要性について強調させていただきました。今回もテーマは歯周病ですが、もう少し突っ込んでお話させていただきます。まずは歯周病のおさらいから…。

歯周病って何でしたっけ？

現在の歯科における二大疾患は齲蝕（虫歯）と歯周病です。前者の虫歯は歯が細菌によって壊されていく病気で、まさに歯医者という言葉にピッタリの病気ですが、歯周病は歯ではなく、その周り^{しそくのうしろ}にある歯ぐきが細菌の感染によって腫れて、骨が溶けてしまう病気になります。昔は「歯槽膿漏」と呼ばれており、字をみるだけで膿が漏れ出る感じが伝わって、あまり良いイメージは沸きませんね。

この病気は「Silent Disease」といわれ、全く自覚症状がありません。病気の初期は歯ぐきが腫れたり、出血するだけ（この状態を歯肉炎と言います）なので、歯ブラシのあとのうがいで血がまじったかなと思うくらいで、ほとんどの方は危機感を覚えず、見過ごしてしまいます。この程度の病状であれば、正しいブラッシングを行うことで、間違いなくほぼ元の健康な歯ぐきに戻すことが可能です。しかしながら歯ぐきの炎症が慢性化すると、歯周病を引き起こす細菌が歯ぐきの下の顎の骨へと波及していきます。こうなると何が起るかというと、顎の骨の吸収、つまり骨が溶けてしまう現象が起こります。このころになると、歯が少し揺れ出したり、歯ぐきから膿や血が頻繁に出たり、時には歯ぐきが大きく腫れたりして、やっと自分でもどうも歯ぐきがおかしいと気づいて、そろそろ専門家に診て貰おうかなと重い腰をあげ始めます。

歯周治療のコンセプト

今までの話で少しはご理解頂けたかと思いますが歯周病は細菌の感染によって起こります。ですからその治療にはどうしたら良いのだろうか？と考えたときに、原因（細菌）を減らす、出来れば完全に無くすことであろうと、皆さん自ずとその答えが思い浮かぶと思います。ではそのために実際に何をしたら良いでしょう？基本的にはご自身による毎日の歯みがきと、歯みがきでは落とせない歯石の除去になります。歯石は専門家が特別な器具を用いなければ取ることが出来ません。また歯周病が進行した歯の場合では、歯周ポケットがかなり深く簡単に歯石を取り除くことが出来ないのです。歯ぐきを開いてお掃除したり（歯周外科手術）、もっと重症な場合は汚れを取りきる事が出来ないのです積極的に抜歯を行うことがあります。

歯周治療のゴール

さて、歯周病は細菌を除去し治療することはおわかり頂けたと思いますが、ここでもう一つお話しなくてはいけないことが…。それは歯周病治療をして歯ぐきの腫れや出血が治まっても、元の通りの骨に戻ることは無いし、抜けた歯がまた生えることもあり得ないと言うことです。結局の所、現在の歯周治療のゴールは、元通りに戻すのでは無くて、これ以上病気を悪くしないことなのです。うーん残念。

でも朗報が…

基本的に歯周病の治療で期待できることは、如何にしてこれ以上悪くしないか、病気の進行を遅らせるか、と言うことでしたが、最近では失われた骨を作り出して、健康な元の

状態に近づける治療法（歯周組織再生療法）が生み出されて良好な結果が得られています。しかしながらこの治療法は適応がまだまだ限られていますので、このような処置のお世話にならないように日頃のお口のお手入れ、また怪しいなと感じたときは早期発見、早期治療を心懸けて頂きたいと思います。